

県立民俗博物館：収集・保存方針を議論 収蔵過多問題で初会合 県立民博 ／奈良

2024/11/19 毎日新聞 地方版 19ページ 574文字

県立民俗博物館（大和郡山市矢田町）の収蔵品が増えすぎた問題を受けて県は18日、これまで明文化されていなかった民俗資料の収集や保存、除籍（廃棄）基準を決める有識者委員会の初会合を開いた。収蔵状態についての情報を共有し、他自治体の事例をもとに意見交換した。

国立民族学博物館の日高真吾教授（保存科学）が委員長を務める。他のメンバーは鳥取県立博物館の樫村賢二主任学芸員（民俗学）▽国立歴史民俗博物館の川辺咲子特任助教（文化資源学）▽大阪経済大の下山朗教授（地方財政学）▽京都芸術大の伊達仁美名誉教授（保存科学）――。会議自体は「率直な意見交換のため」として非公開で進められた。

終了後、日高委員長は「収蔵場所不足は全国で共通する問題。その中でも地道に収集した資料を意味あるものとして提供できるようにベターな方法を考えたい」と話した。また「3Dデータのみでは、情報は十分に引き出せない。効果的に使うには、デジタル情報は一次情報と両立させないといけない」とし、廃棄は最後の手段である点を強調した。

2025年度中に収集・保存方針を策定して運用を始める予定。今年7月から公開を一時停止している民俗博の展示室は27年度中の再開を目指している。【川畑岳志】

■写真説明 民俗資料の保存方針を検討する委員会の初会合であいさつする西村高則副知事（左端）と委員ら＝県庁で

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.